

ポスト・ブッシュ、環境大国へ

# オバマ・マケインの環境政策

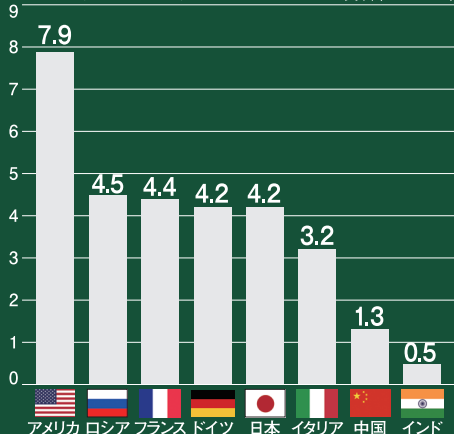
20世紀型の大量消費文明の象徴である米国は、京都議定書の枠組みとも貫いて距離を置き、地球規模の環境活動における存在感は決して大きくなかった。しかし、大統領選のオバマ・マケイン両候補者とも「環境」を前面に掲げ、どちらの候補が当選しても、積極的な環境政策、特に「脱石油」への大転換になるのは間違いない。米国の環境・エネルギー政策、ビジネス・ライフスタイルはどう変貌するのか。

(米シアトル市岩下慶、サンフランシスコ市形山昌由、佐々木順子、ロサンゼルス市寺町幸枝)

世界の一人あたりエネルギー消費量

消費量(石油換算トン)

OECD資料(2004-05)



## 環境・エネルギー政策を大転換

今後数年間のうちに米国は大きな転換期を迎える。イラク問題の収束、覇権国家からの退陣などさまざまな変化が予想されるが、世界の流れを変えようという意味で一番大きな「チェンジ」を引き起こすのは環境・エネルギー政策ではないだろうか。

ナンバーワンの石油消費国が「脱石油」を試みるのだから、世界に与えるインパクトが小さい訳はない。大げさではなく、地球の産業地図を塗り替える変革になるだろう。そして、その最初の一太刀を振るうのが11月に選出される第44代大統領である。

民主党のバラク・オバマ、共和党のジョン・マケインのうち、オバマのスター性からか、日本では「次期大統領はオバマ」という見方が強い。しかし、今年米国を襲ったガソリン高騰のさなか、比較的具体的なエネルギー政策を提示していることもあって、マケインの人気はじりじり上がってきた。

マケインは共和党候補としては異色とも言えるフレキシブルな人物だ。媚びへつらいではない柔軟な政策、支持団体さえ敵に回す事を厭わない意思の強さ。骨のある人物である事は誰もが認めるところだ。テレビ討論で見せる茶目っ気や笑顔は、従来の共和党候補の頑迷で威圧的

# どっちが勝っても「脱石油」

などろがない。

今回のレースの重大な争点の一つが「環境」だ。そして、この大統領選挙の帰すうは近い将来、米国だけではなく地球規模の環境対策に大きな影響を及ぼすのは間違いない。メディアの世論調査では9月中旬現在、ほぼイーブンの結果で、どちらが勝つかは本当に分らないが、オバマ・マケイン両者の環境・エネルギー政策の違いを比較してみよう。

## 争点は「イラク」から「環境」へ

つい半年前まで大統領選挙の最大の争点はイラク戦争だった。早期撤退を主張するオバマ・ヒラリーの民主党サイドと、あくまで完全勝利を目指すマケインの間で論戦が張られていたが、米国に広まった厭戦感、民主党への追い風になっていった。

そこに降って沸いたのがエネルギー問題。オバマ指名が決定したところから原油価格高騰が始まり、一時期はバレル140<sup>ドル</sup>を突破、10年前に1<sup>ドル</sup>程度だったガソリンは今や4倍以上である。あらゆる生活必需品が値上がりし、米国民の関心は一気にエネルギー問題にシ

フトしてしまった。環境政策を含めたエネルギー問題が、イラクを超える重要なテーマになってきたのだ。

石油エネルギー依存体質を変えるべきであるという認識は今や共和党にまで広がっており、マケインのエネルギー政策もかなりエコロジー志向となっている。

脱石油エネルギー、CO<sub>2</sub>をはじめとする排出物の制限、という2点においてはオバマとマケインの主張はほとんど同じだ。しかし、細かいアプローチではかなり異なる。まずはオバマの政策を見てみよう。

## 自然エネルギーを推すオバマ

オバマは「グリーン」は米国人の「モラル・チャレンジ」だとして、かなり大掛かりな目標を掲げている。「アポロ計画規模」と自賛する自然エネルギー開発に1500億<sup>ドル</sup>の投資を行い、石油に依存しない国家を目指す。設定目標はかなり高い。

2018年までに一日300万<sup>バレル</sup>の石油消費を削減、2030年までには削減量を1000万<sup>バレル</sup>、現在の半分近くに

持つていく。問題は削減量をどうやって補完するのだが、そこで推進しようとしているのがバイオ燃料だ。

オバマが特に推しているのは、牧草やトウモロコシの茎などを使った、食料と競合しないセルロースエタノール。これを2013年までに20億<sup>ガロン</sup>に増産するという。この技術開発のためにベンチャーキャピタルファンドを創設し、100億<sup>ドル</sup>を投入する。結果として、技術開発、雇用創出の一石二鳥が見込めるといわれる。

2025年までに風力、地熱、太陽光発電の比率を総電力発電の25%までに引き上げる。これらは第三セクターの事業とし、ここでも雇用が期待できる。オバマ陣営がはじいたソロバンでは、新エネルギー開発による雇用創出効果は500万<sup>ドル</sup>。

一方で、企業に対する規制についてはかなり厳しい態度を打ち出している。排出権取引を推進するだけでなく、石炭をはじめとする「ダーティー（汚れた）エネルギー」には厳しい課税を行う。

オバマはまたハイブリッドカーの信奉者として知られ、とくに家庭用電源など

## マケイン・オバマ両候補の環境・エネルギー政策の違い

| 候補者         |                        |                              |
|-------------|------------------------|------------------------------|
|             | マケイン<br>McCAIN         | オバマ<br>OBAMA                 |
| 原子力発電       | 推進派、2030年までに45基を増設     | 安全性は認めているが、廃棄物処理を理由に増設には反対   |
| 海底油田採掘      | すぐにも開始を主張              | 一部は止むを得ないが、自然エネルギーの開発に力を注ぐべき |
| 自動車         | 電気自動車を推進。加えて電力インフラ強化   | インフラ整備の必要性がないハイブリッドを推進       |
| エタノール燃料     | 食糧事情を逼迫するので反対          | 賛成。セルロースエタノールで食糧危機を回避        |
| 風力、太陽発電等の開発 | 積極的。ただしあくまで補完的な位置付け    | 積極的。かなり多くの開発予算を配分            |
| 企業への対応      | 排出量取引(CAP AND TRADE)支持 | 排出量取引は支持、但し課税や規制も積極的に行う      |



から充電可能なプラグイン・ハイブリッドカーを強力にバックアップする事を明言している。2015年までに100万台のプラグイン・ハイブリッドカーをデトロイトで生産するとぶち上げた。まさにアメリカを「チェンジ」する壮大な計画である。

ただし、あくまですべてがうまく行けばの話だ。自然エネルギーの開発はそんなに簡単に行くのか、米国の襲っているエネルギー危機への対応は——など、疑問は多い。11月の選挙までにこの辺りが大いに論じられる事になるだろう。

## 原発の増設を目指すマケイン

一方のマケイン。共和党候補の中では、例外的に地球温暖化対策に力を注いでいる。「資本主義の原則も環境も保持する理想的な施策」だとして排出権取引を積極的に支持。石油脱却を標ぼうする点はオバマと変わらないが、その矛先が外国産の石油に向いているのが特徴だ。「中東に利益を出させれば、核の開発に使われる可能性がある」と言い放ち、米国内の油田開発を主張する。

オバマが地球の環境と未来に軸足を置いているのに対し、石油を単なるエコロジにとどめず、米国の安全保障問題にまで広げている点は元軍人のマケインらしい。

米国の命運を産油国に握られてはならないという主張から、とにかく外国産石油の排除を目標としている。その方針は確かに正しいが、ブッシュ時代を含め散々中東の石油利権を操作してきた米国が、今やどうにかして縁を切りたいというのも身勝手な話ではある。

マケインはエネルギー政策として、「レキシントン・プロジェクト」なるものを提示している。独立戦争の火蓋が切って落とされた街レキシントンの名を冠したこの計画は、米国が「エネルギー独立国」になる事を目指している。

## 「レキシントン計画」を推進へ

このプロジェクトは三本の柱からなる。一つは国内油田の開発、二つめは原子力発電所の増設、そして三つめがオバマも支持しているクリーン石炭の推進である。クリーン石炭は、二酸化炭素の発生量が少ない次世代エネルギーだが、この開発に年間20億ドルを投入するという。次に原子力発電の推進。2030年までに45基の原発を建設、最終的には100基にする計画だ。

風力、太陽など自然エネルギーの開発に関してはオバマと大きく食い違う点はないが、エタノールに関しては、国内生産の増加が食糧事情を逼迫するという理由で消極的だ。ハイブリッドカーに関し



電気自動車の新しい形として注目される「テスラ・ロードスター」 ©Tesla Motors, Inc

の最大の違いは、マケインが段階的な脱石油、最終的には原発主流の社会を目指しているのに対し、オバマは自然エネルギーを主眼に置き、しかもかなり急激な改革を行おうとしている点だろう。

特に海底油田の採掘に関しては意見が対立している。現在のエネルギー危機を改善するために採掘解禁は不可欠と主張するマケインに対し、オバマは環境問題などを理由に反対の立場をとっていた。石油採掘には最短でも55年かかり、即効性がないというのがその理由だ（現在は一部採掘は止むなしという考えにシフトしている）。

対立点は他にもある。「原子炉のセールスマン」と揶揄されるほど原子力発電に入れ込んでいるマケインに対し、オバマは原子力の必要性は認めるものの、増設に関しては廃棄物処理問題を理由に反対している。排出権取引に関しては両者とも推進派だが、オバマはさらに石油会社を含めた企業への課税、規制の強化を主張。両者の政策は細かい点ではまったくの平行線である。

オバマのハイブリッドに対しマケインは電気自動車が好きらしく、インフラ整備も含め、大規模な普及を目指している。また、電気自動車用次世代バッテリーの開発に成功した人や企業に300億円の賞金を贈る賞を創設する予定だ。

## 海底油田の是非では明確な対立

オバマとマケインのエネルギー政策

2010年代、原発が立ち並び、電気自動車が走り回っているのか、それともコーン畑とハイブリッドカーが未来を覆っているのか。いずれにしても08年11月が未来の分岐点となるのは間違いない。

# 生活の木は年間30万kWhを グリーン電力でまかさないです。

いま、私たちの生活に電気は欠かせないものとなっています。しかし、電気を作り出すためには自然の一部を犠牲にしたり、多くのCO2を地球に排出しなければならないことも、また事実です。

生活の木は、風力やバイオマス（主に住宅の柱や梁などに使用される集成材。製造過程で発生する木屑、廃材を有効活用する方法。）による発電電力を毎日の業務に使用することにより、私たちを育む自然環境の保護に少しでも寄与しようと考えています。





# 米国的資本主義と一線画す

米国型資本主義の象徴であるウォール街や「ブルーチップ」と呼ばれる大企業の志向とは明らかに一線を画した、環境や社会貢献の意識が特に高い経営者も米国にはいる。大量生産・大量消費のアンチテーゼとして、消費者から根強く支持される企業も少なくない。そのうち特筆すべき創業者たちを紹介しよう。

(サンフランシスコ=形山昌由)



## 原料生産地の 原住民族を支援

### ■アヴェダ ドミニク・コンセイユ

売れっ子のヘアスタイリストが作った1本のシャンプーから始まったのがアヴェダ(ミネソタ州)。創業者のホースト・レッケルバッカー氏は世界を駆け巡るヘアスタイリストとして活躍中にインドの伝統医学アーユルヴェーダを知り、その影響を受けた。天然成分のシャンプーを開発したのが1978年。この年、米国ミネソタ州にアヴェダを創業した。

レッケルバッカー氏が同社に課した使命は、「製品から社会還元まで、すべての活動を通じて命あふれる地球を守り続ける」。それを実践するために、製品だけでなく企業活動全般を通じて常に持続可能性を追求し続ける。

その方針は、2000年に同社の社長に就任したドミニク・コンセイユ氏にも確実に引き継がれている。

1956年生まれでフランス人のコンセイユ氏はビジネススクールの卒業後、日本ロレアルの副社長も経験するなど実績は十分。社長就

任後には環境や社会貢献活動に積極的に取り組む。本社の使用電力も全て風力発電で賄う。原料生産地の環境保全を狙いとした原住民族の支援に100万ドル以上を支出する。「利益を上げるだけの企業は時代遅れ」と言い切る感覚を持ったエコ経営者だ。

世界26の国と地域で利用されるアヴェダの製品は、植物由来成分をベースとした化粧品やヘアケア用品など地球環境に配慮。原材料となるエッセンシャルオイルの90%、植物原料の89%は有機農法認定だ。パッケージや容器にも再生素材を利用するなど、その取り組みは徹底したものだ。



## 7世代先の影響を 考慮して経営

### ■セブンス・ジェネレーション ジェフリー・ホレンダー

地球環境に配慮した家庭用品メーカーとして高い知名度を誇るセブンス・ジェネレーション(バーモント州)の創業者はジェフリー・ホレンダー氏。

父親は、広告代理店の経営者としてアイゼンハワー大統領がテレビ

に初登場した際には指南役を務めたほどの人物。その血筋を引きついだホレンダー氏は子供時代から良く知る人は、「マーケティング能力は父親譲り。大人になったらきつと成功すると確信していた」という。

大学を卒業後、成人を対象に専門技能を交換して学びあうNPOをトロントに設立して成功させたのを皮切りに、ニューヨークでも同様の試みを行うなど早くも起業家としての才能を見せ始める。現在のAOLタイムワナーに会社を売り、30歳の時には子会社の社長に。だが、自分が人生で本当にやりたいことを考えるようになっていたホレンダー氏は同社を退職。その後書いた一冊の本『ハウツー・メイク・ザ・ワールド・オブ・ベター・プレス』が、セブンス・ジェネレーションを創設する導き役となった。創業後しばらくして、アメリカ先住民族の「7世代先までの影響を考慮して討議する」と言い伝えにならって現在の社名に改名。商品構成も次第に改良して知名度を高めていった。

ホレンダー氏は、環境団体の米国グリーンピースの役員を務めるほか、多くの団体の要職を歴任している。こだわりの末の創業だからか、取り組みも徹底している。液体食器洗剤の成分には、無毒性、生分解性、低刺激性、非石油使用、非リン酸系、耐腐食性を使用。製品開発のための動物実験も決して行わない。



## 工業と地球の 共生目指す

### ■インターフェイス レイ・アンダーソン

ジョージア州アトランタに本拠を置くカーペットメーカー、インターフェイス社は年商約1100億円、商業用カーペットでは世界一のシェアを誇る。目標としているのは「ゼロ・フットプリント生産(地球環境に足跡をつけない生産)」の実現。素材を可能な限りリサイクルに求め、粗製原料の使用を極力減らす。工場稼働のためのエネルギーも太陽熱、風力、バイオエネルギー等を利用する。こうした徹底的な企業姿勢を引っ張っているのがカリスマCEO、レイ・アンダーソン氏の存在だ。

94年、ビジネスの見地から環境問題を論じた書籍「サステナビリティ革命」(ポール・ホーケン)に啓発を受け、環境経営に目覚めた。「将来工業過程を地球と共生させるものに作り変える事が必須となる」と直感した。

生産ラインを見直すなど持続可能性の追求は、結果的に生産コストを下げる事になり、利益の向上につながった。生産過程を徹底して省資

源化・効率化した結果、「95年から削減コストの累積は約300億円」という。

インターフェイスの目標は、やがて起こる「第二の産業革命」のバイオニアとなること。企業のあり方にしても、「今や地球上のすべての場所が、ハリケーンに破壊されたニューオリンズのようになる可能性を秘めている。自然環境という根本の土台が脅かされている事を認識できない企業は、遠からず淘汰されると思ふ」と断言する。



## フェアトレードで成功、上場果たす

■グリーンマウンテン・コーヒー・ロースターズ  
ロバート・ステイラー

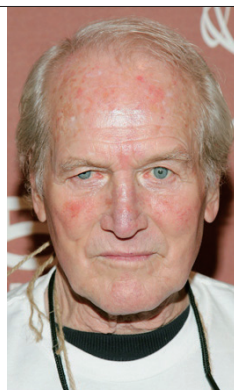
高品質な有機農法コーヒー豆を提供する卸事業で急成長を遂げたグリーンマウンテン・コーヒー・ロースターズ（バーモント州）のロバート・ステイラー氏の場合、偶然と直感が現状をもたらした。きっかけは、一杯のコーヒーだった。スキー旅行で偶然立ち寄ったバーモント州のコーヒーショップで飲んだコーヒーの味わいに感激して

「これは良いビジネスになる」と直感。そのコーヒーショップを買い取って81年に自らコーヒービジネスを始めた。だが、その時点では持続可能性について考えていたわけではない。

企業としての環境意識に芽生えたのは、業務コスト削減のためのアイデアで苦しんでいた時だった。節電や業務資材のコスト削減などを実施しているうち、次第に社会貢献活動の方向へ考えが向いていったという。90年代に入ってから熱帯雨林の維持を目的としたNPOであるレインフォレスト・アライアンスなどに寄付を行い、コーヒー農園で働く労働者の生活向上にも関わっていく。

顧客に高品質なコーヒーを提供するために有機農法で栽培されたコーヒーを仕入れ、その調達元の農園には上乗せした費用を支払うことでフェアトレードを進める。同社は現在、有機農法とフェアトレードの双方を満たした「ダブルサーティファイド・コーヒー」の最大の販売元になった。

成功を収めた同社は、ステイラー氏の信念である「最良の品質とサービスを提供し続けられ、顧客はリピーターになる」を実践した結果とも言えるだろう。同社は現在7千以上の顧客を持ち、93年にはナスダックへ上場。税引き前利益の5%を社会貢献活動に寄付するなど、持続可能な社会に向けて高い貢献を続けている。



## 純利益の全額を慈善団体に寄付

■ニューマンズ・オーン  
ポール・ニューマン

ハリウッドスターが作った自家製ドレッシングが、高い社会貢献を生んだ。ポール・ニューマン氏がオーナーを務めるニューマンズ・オーン（コネチカット州）だ。

有機農法によって作られた野菜や果物をもとに製造したドレッシング、ソース類を販売する同社の設立は82年。還暦を迎える年齢に近づいていたニューマン氏は、すでに映画「ステイキング」でアカデミー作品賞を受賞。俳優として確固たる地位を築いていたが、旺盛な好奇心を基にした活動基盤はそれだけにとどまらなかった。

ベトナム戦争後に反戦運動と公民権運動を展開し、その積極的な活動から政府のブラックリストに氏名が掲載された。また自動車レースにも参戦し、耐久レースの最高峰であるル・マン24時間レースで2位を記録するなどした。

そんな行動力と好奇心を持つニューマン氏だから、ニューマンズ・オーンも当初はあまり本気ではな

冗談半分で設立したともいわれる。しかし、知名度抜群のニューマン氏が経営する自然志向の食品会社ということもあり、瞬く間に業績が拡大した。初年度は1200万ドル以下の売り上げを予想していたにも関わらず、その5倍となる6千ドルを記録。現在では年間1億2千万ドルを稼ぎ出している。

ニューマン氏が評価されるのは社会貢献度の高さ。同社の純利益の全額を教育、慈善団体に寄付し、総額は2億ドル以上に上る。また、娘のネル・ニューマン氏も、オーガニックスナック、コーヒー、ペットフードなどを扱うニューマンズ・オーン・オーガニックを経営、父親の事業方針を受け継いでいる。



## すべてのコットンをオーガニックに転換

■パタゴニア  
イヴォン・シュイナード

アウトドア衣料・用品のパタゴニア（カリフォルニア州）は、世界で初めて回収ペットボトルから再生したフリースを販売し、すべての綿製品をオーガニック（有機）綿に変えた企業だ。創業者イヴォン・シュイナードはカリスマ的な登山家であり、サー

ファード。有名な山の初登頂を狙うというタイプではないため日本での一般的な知名度は高くないが、世界の多くの登山家やサーファァーに多大な影響を与えてきた。

10代で開発したクロモリ（クロームモリブデン鋼）製のピトン（岩の隙間に打ち込むクサビ）。それまでのピトンは欧州の伝統を受け継いだ鉄製で、後にくる登山者のために残すのが常識だったが、イヴォンのクロモリ製ピトンは丈夫で何度でも抜いて使うことができ、当時の登山家の間で大きな評判を呼んだ。

だが、イヴォンは「クロモリ製ピトンさえ山を傷つけてしまう」と思い、72年に「クリーン・クライミング」を提唱する。つま先のアイゼンのわずかな爪だけで氷壁を登る。それ以降は、登山道具を売ることにす

らやめてしまった。パタゴニアがオーガニック綿にこだわるのにも理由がある。綿は害虫に弱く、大量の農薬・殺虫剤を必要とするのだ。全世界の主要農産物に占める綿の割合は0.9%だが、世界中で使われる農薬のうち綿栽培向けが8%に達する。他の農産物の10倍近くも農薬が使われている計算だ。これによる農薬中毒、環境への影響は無視できない。

パタゴニアは独自にオーガニック綿の調達ルートを開拓し、ナイキなど同業他社にも紹介してきた。最近では遺伝子組み換え食品や養殖サーモンなどに強く反対している。





カリフォルニア新幹線の予想図 ©NC3D

# 自動車からバスへ 時速350キロの新幹線も 変わるカリフォルニアのライフスタイル

片道6車線ものフリーウェイを埋め尽くす通勤のクルマ、めまぐるしく発着する航空機——。そんなカリフォルニアのライフスタイルが原油の高騰で大きく変わりつつある。サンフランシスコとロサンゼルスをつ結ぶカリフォルニア新幹線も建設に向けて計画が始動した。最新のカリフォルニア事情をお届けする。

(ロサンゼルス＝寺町幸枝)

カリフォルニア州ロサンゼルス。モーターゼーションの発達とともに、かつての鉄道網の多くが60年代までに廃線になり、それ以降はクルマがないと通勤も通学もしにくい状況が続いていた。そんな街に大きな変化が起きている。マイカー通勤の減少とクルマ離れた。

5年前(03年8月当時)のカリフォルニアのガソリン平均価格は1<sup>ガロ</sup>(38<sup>ドル</sup>)当たり2<sup>ドル</sup>6<sup>セント</sup>。今年最高値を記録した6月の値段は4<sup>ドル</sup>59<sup>セント</sup>。5年で2.2倍という高騰ぶりは、せいぜい5割増くらいである日本の比ではない。

## スクーター・自転車も大人気

いま、南カリフォルニアではスクーター

が猛烈な勢いで売れている。販売業者の団体によると、南カリフォルニアのスクーター販売は08年上半期、4万9千台と前年比65・7%増の急速な伸びを示した。スクーターは1<sup>ガロ</sup>当たり50<sup>マイル</sup>(80<sup>キロ</sup>)以上走り、価格も3千<sup>ドル</sup>未満と手ごろ。初期投資もランニングコストも経済的なスクーターに人気が集まる。

「4・5年前までは売れなくて四苦八苦していたが、今ではオーダーが間に合わないほどの発注が来る」とイタリア製のスクーター「ベスパ」のディーラーはうれしそうに語る。

自転車も注目を浴びている。自転車ユーザーのための団体、ロサンゼルス郡自転車連合会(LACBC)は08年に入っ

て急に会員が増加。なかでも通勤に自転車を利用する人が急激に増えたという。フォードは2・3人乗りの電気自動車「シンク」を来年、急ぎよ全米に投入することを決めた。前評判はあまり良くなかったが、ここに来ての原油暴騰で存在感が急に高まった。シヨールームにはすでに多くの予約が入っているという。

ロサンゼルス在住のジャーナリスト、リチャード・セリーニ氏は「カリフォルニア州民の生活や意識は、ガソリン高をきっかけにダイナミックに変化した」。

## 公共交通へのシフトも加速

カリフォルニア州交通局によると今年6月、州全体のフリーウェイの使用率が、

昨年の同時期と比べて、1.5%下がった。ロサンゼルス南郊のオレンジカウンティでは、ロサンゼルスをはじめとした近郊都市とを結ぶ鉄道「メトロリンク」の1日当たり乗車人数が初めて5万人を突破した。市の統計によると、06年までロサンゼルス住民のうち公共交通で移動する人はわずか7%。それが、昨年末からじわじわと増加し、この1月から3月にはダウンタウンに通じるバスの乗客が前年比13・16%増、ロサンゼルス全体では同平均8%増となった。

西のビジネス街センチュリーシティーの会社へ毎日5<sup>分</sup>ほどの道のりを自動車通勤していた黒瀬智子さん(33)は、この6月からバス通勤を始めた。

「トヨタのソラーラに乗っていたが、渋滞の町中を走ると、思いのほか燃費が悪く、ガソリン代がかさむのが気になり始めた」そうだ。黒瀬さんの場合、通勤路に都合良くバスが通っていることが分り、

片道約80円のバス代が、いかに経済的か

# カーテンが太陽光発電!?

## MITの教授が開発、来年量産化へ

米国で太陽光発電の可能な布地が開発され、話題を集めている。カーテンへの応用が実用化されれば、自然エネルギー拡大の「翼を担うかもしれない」。米国のテクノロジーとユービジネスが環境関連に向かい始めた。

(サンフランシスコ＝形山昌由)

この布地を開発したのはマサチューセッツ州ボストンのケネディ・アンド・ビオリッチ・アーキテクチャード社。開発者のシーラ・ケネディ氏はマサチューセッツ工科大学（MIT）で教鞭を取る建築家でもある。

「ソフトハウス」と名づけられたプロジェクトで開発された布地は、光起電性フィルムを応用して作られている。太陽の光を受けて作られた電気は、カーテンの縁に取り付けられた小型バッテリーに蓄えられ、家庭用の電源として使うことができる。

### 最大16キロワット時の電力を発電

家中に発電カーテンを張り巡らせることで、最大16<sup>キロワット</sup>時の電力を発電する。これは、米国の一般家庭で一日に使用する電力のほぼ半分に相当する。布地なので使い道はカーテンに限られるわけではなく、いろいろな工夫できそう。

現在のところ発電性能はあまり高くないようだが、研究を続ければ夜間の発電も可能になると同社では意気込んでいる。また、ほとんど環境を汚さずに生産できるのも特徴。ビルを建てる費用の4割を占めるのが電気と機械関係ということを考えて、建設

コストの削減にもなる。

### 09年の量産化を目指す

太陽光発電カーテンの試作品は、ドイツの家具メーカー「ビトラ社」のデザイン博物館に展示されている。ケネディ社では現在のところ、09年の量産化を予定している。今後の製品改良や生産体制の確立に向けて、ビジネス・パートナーを募集中心だという。

環境保護活動家のエイモリ・ロビンス氏が、持続可能な社会に向けたエネルギー戦略である「ソフトエネルギーパス」の概念を提唱してから30年が過ぎた。太陽光発電カーテンは、自然エネルギーの歴史に新たな一ページを刻むかもしれない。



に気が付いたという。通勤時間は車より10分ほど延びたが、「経済効果と運転のストレスから解放されることを考えたら、バス通勤は悪い選択ではないと思う」。

新車セールスにも影響が出始めた。カリフォルニア自動車販売協会（CMCA）によると、カリフォルニア州の乗用車・軽トラックの販売は、今年初めから前年比18%以上も下がり、6月の前年実績は10万台も減った。

中古市場でも同様だ。自動車産業の調査・コンサルティングを行うJ・D・パワー・アンド・アソシエーツによると、ホンダのフィットやトヨタのヤリスなど小型車の評価が上がった一方で、これまで人気のスポーツユーティリティ車（SUV）は大きく評価を下げた。平均の評価価格は大型のSUVで45%、大型のピックアップトラックで56%下がった。同じく燃費の悪い欧州の高級乗用車も、全体的な評価は下がり気味だ。

### LAとSFを3時間で結ぶ

ガソリン高騰で州政府も新政策を打ち出した。その一つが、北部の州都サクラメントやサンフランシスコとロサンゼルスをつなぐ「カリフォルニア新幹線構想」。

構想自体は10年以上前からあったが、財政難などから計画は先延ばしになっていた。今年8月、シユワルツネッガー州知事が予算案に署名、長年の懸案だった新幹

線建設に向けて第一歩を踏み出した。最高時速350<sup>キロ</sup>の新幹線が完成すると、車で6時間かかっていたサクラメントとロサンゼルス間は2時間に、サンフランシスコとロサンゼルス間も3時間以内に短縮される。

ロサンゼルスダウンタウンとサンタモニカを結ぶ地下鉄計画にも脚光が集まる。市の交通局も15年ぶりにルート構築に関する調査をはじめた。こうした新幹線や地下鉄が完成すればカリフォルニアは「脱クルマ社会」に向けて、大きく前進することになる。

### ソーラーパネルの義務付けも

変化は公共交通だけではなく。シユワルツネッガー州知事は昨年、「2011年までに新築住宅にソーラーパネルの設置を義務付ける」法案に署名をした。これにより、同州が推進する「100万戸ソーラー・ルーフ計画」や、2020年までに温室効果ガスの排出量を1990年レベルに削減することを定めた「カリフォルニア州地球温暖化対策法」を後押しする。州最大の電力事業者である南カリフォルニア・エディソン（SCE）社は、カリフォルニア州フォントナナ物流施設の屋根に出力22<sup>メガワット</sup>のソーラーパネルを設置するのを始めに、5年間で合計出力250<sup>メガワット</sup>という米国最大の太陽光発電網を構築する計画だ。



## シスコ ホーム クレルモン デイベッド メイドインロサンゼルスを持続可能なソファ

ロサンゼルスダウンタウンにある工場で、一つ一つ手作りするデザイン家具。材料である木材や布に限らず、接着剤や釘など、あらゆるパーツが天然あるいは低刺激性のもの。2006年に業界に先駆けて、森林管理協議会（FSC）からも認定を受けるなど、厳選した材料を用いて、持続可能な家具作りを行っている。メキシコ出身の家具デザイナーで、シスコブラザーズオーナーのシスコ・ピネド氏は



2000ドルから

は、「本格的にグリーンマーケット向けの家具を作りはじめて最初に苦労したことは、必要な材料の調達先に理解してもらうことだった」と語るほどのこだわり。環境に優しい家具メーカーとして注目され、商品は全米で販売されている。

### Cisco Brothers, Corp.

住所／1933 W. 60th St. Los Angeles, CA 90047 U.S.A. 電話／1-323-778-3200  
Fax／1-323-758-8153 URL／<http://ciscobrothers.com/>

## シンクシン チャンキー ピーナツ バター 生活に活力を与えるバー

パッケージの可愛さから、思わず手に取ってしまう。米国のセレブたちが愛するエナジーバーとしても知られるシンクプロダクト。「ガンを煩った親しい人の介護を通して、ホリスティック療法と正しい栄養摂取法の大切さに気付いた」とは、同社CEOで元モデルのリザンナ・ファルセット。グルテンも糖分もゼロ。18種類のビタミンやミネラルに20g



1.69ドル

のタンパク質が含まれた栄養バーは、大人も子供も大好きなピーナツバター味。糖尿病患者も安心して食べられるスナックとして、全米のスーパーマーケットで販売されている。

### Prime Health Dietary Supplements, Inc.

住所／2140 Eastman Ave # 112 Ventura, CA 93003 USA  
電話／1-805-644-4848  
URL／<http://www.thinkproducts.com/>

## ブリリアント アース キャスケイドリング 環境を考える二人を結ぶ大切なリング

宝石産出地のアフリカでは、ダイヤモンドがまだ民族紛争を続ける武装勢力の資金源といわれている。こうした背景に反対する米国の若者たちから、サンフランシスコの宝石商「ブリリアント・アース」社が注目されている。紛争とは無縁なカナダで採掘されたダイヤモンドに、再生プラチナバンドを使用するなど環境を考慮したジュエリーを販売しているからだ。



1カラットダイヤモンド  
再生プラチナセッティング、8500ドル

とくにこの波形リングの婚約指輪が人気で、外見の美しさだけでなく、身につける人に安心と自信を与えてくれる。豊富なカットダイヤモンドに加え、オリジナルデザインの注文が可能なのも嬉しい。

### Brilliant Earth

住所／12 Geary, Suite #605, San Francisco, CA 94108 USA  
電話／1-415-354-4623 Email／[info@brilliantearth.com](mailto:info@brilliantearth.com)  
URL／<http://www.brilliantearth.com/>（ショールームには事前予約が必要）

## Levi's® 539TM エコ ヴィンテージ ストレートレッグジーンズ 100%オーガニックコットンデニム

デニム界の本来元らしいこだわりよう。デニムの素材がオーガニックコットンであるだけでなく、リーバイスの象徴である2頭の馬が印字されたパッチは、コットンキャンバスを天然染料で染色。ボタンはココナッツの殻で出来た生分解性だ。さらにリベットもリサイクル素材で作られたものが使われている。業界を常にリードする「革新的なデニム屋」を誇るリーバイスらしい。この539は、スト



69.50ドル

レートのシルエットに、部分的に皺を付けるヴィンテージ加工を施したボタンフライのジーンズ。現在は米国と欧州で販売。

### Levi Strauss & Co USA

住所／1155 Battery St, San Francisco, CA 94111 U.S.A.  
電話／1-800-872-5384 URL／<http://www.levi.com/>

## ボンテッラ 2006 ヴィオニエ ワイン 有機栽培100%のブドウ酒

カリフォルニア州メンドシーノ。冷涼な地域で早くから無農薬、無化学肥料、無除草剤でブドウを育て、ワインを作り続けているボンテッラワイナリー。有機栽培ワイナリーのバイオニアだ。中でも、辛口でフルーティーなヴィオニエの2006年ものは、今年のロサンゼルスインターナショナルワインコンペティションで、見事金賞に輝いた。「深みのある果実が、蜂蜜



17.99ドル

やオークの香りと混ざり合い、濃厚なワインの味わいをもたらす」とはカリフォルニアワインの評論家チャールズ・オルケン氏の言葉。

### Bonterra Winery

住所／2231 McNab Ranch Road Ukiah, CA 95482 USA  
電話／1-800-753-4567 Fax／1-707-744-760  
URL／<http://www.bonterra.com/>（同ワイナリーは一般には公開されていません）

## ピカロ ガス アンド アイソトープ アナライザー 温暖化促進ガスの観測を容易に

昨年カリフォルニアの科学者たちが、北カリフォルニアの大気中のガス観測を始めた。同州のCO2削減対策が実際に効果を上げているか、科学者の予想がいかに正確かを調べるのが目的だ。この観測に採用されたのが、環境ベンチャー企業、ピカロ社のガスアナライザー。従来品と異なり、研究室はもとよりフィールドでも簡単に操作できる。キャリブレーションがほとんど不要



Picarro G1301

で、安定した高精度で各種の温暖化促進ガスを計測し続けることなどが画期的と評価された。地域ごとのCO2観測が容易になることで、より効果的な削減対策が可能になると期待されている。

### Picarro Inc.

住所／480 Oakmead Parkway, Sunnyvale, CA 94085 USA  
電話／1-408-962-3900 Email／[nfukatsu@picarro.com](mailto:nfukatsu@picarro.com)（日本語可）  
URL／<http://www.picarro.com/>  
（日本販売代理店 三洋貿易（株）<http://www.sanyo-si.com>）

